

1. 評価結果概要表

作成日 2008年5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0871200218
法人名	医療法人 永慈会
事業所名	ひたちの森スマイルハウス太田
所在地	茨城県常陸太田市磯部町90-1 (電話) 0294(80)2230

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年5月27日	評価確定日	平成20年10月6日

【情報提供票より】(平成 20 年 5 月 5 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 14日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	27 人 常勤 16人, 非常勤 11人, 常勤換算 18.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	税込 35,700 円	その他の経費(月額)	光熱水費 税込8,400円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(20万円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,425 円	税込39,900円/月

(4)利用者の概要(5月5日現在)

利用者人数	26名	男性 6名	女性 20名
要介護1	1名	要介護2	8名
要介護3	8名	要介護4	7名
要介護5	2名	要支援2	名
年齢	平均 81歳	最低 59歳	最高 94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	永井ひたちの森病院・大山病院・ブレインピア南太田・藤井病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯に位置し、利用者が寛ぐ居室や居間からは山々が望め、自然の移り変わりが感じられる環境の中にホームはある。職員の笑顔と優しい言葉かけのなか、安心した表情を見せながら作品作りに没頭する利用者が印象的であった。3ユニットと大きなホームではあるが、各ユニットの管理者及び職員がそれぞれの利用者の特徴を把握しており、連携を図っている。地域や行政との連携も積極的に行っており、今後も家族の協力のもと、よりいっそうのケアの向上が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では利用者が食事のときに使用しているビニール製のエプロンについて家庭的な雰囲気が損なわれるとの指摘を受け、裁縫の得意な利用者手作りのエプロンを使用するようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットごとに職員間で話し合いがもたれ、管理者が報告書にまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホーム側からは年間予定や行事報告、インシデント・アクシデント報告、外部評価への取り組みなどが上げられ、また家族からの要望のあった内容についても議題に挙げられている。災害対策について実際に消防署との連携を取り、家族・地域住民協力のもと避難訓練も行われた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を各ユニットごとに配置している。また、面会時や家族会などを利用して積極的に意見を求める取り組みを行なっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日々の挨拶や訪問などの関わりから始まり、奉仕活動や災害時の協力体制作りなど地域とのつながりは非常に強い。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本方針に「地域との自由な交流」を掲げその人らしさを保てるよう援助していくための理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の唱和で理念の確認とケアの振り返りを行ないつつ、利用者の健康管理に重点を置き、最後までその人らしさを保って行けるようにケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小・中学校の行事や奉仕活動に参加している。また、管理者は「地域あつてのホーム」との考えがあり、近隣との連携や日頃からの関わりを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はじめ職員は、外部評価を行なうことの意義を理解しており、今後のケアへの活用や今までのケアの振り返りを行なう機会としている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催されており、ホーム側が提供する議題だけではなく、家族から意見や要望があったものを議題とすることもある。インシデント・アクシデント報告は頻繁に行なわれ、実際にどのようなケアがされているのか報告されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	小中学校の体験学習の受け入れを積極的に行ったり、介護支援専門員が中心となり連携を図っている。		介護支援専門員以外の職員が市役所と連携を取っていくことで、介護保険制度の知識や地域の情報収集が行なえるよう期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度「スマイル通信」を発行し、全家族に送付している。また、体調の変化などについても電話連絡を行なっている。入院している利用者に対しての面会ノートを作成し家族との連絡を取るようになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年1回行っており、ホームからの報告や家族からの要望や意見をもらう機会としている。また、各ユニットに意見箱を設置し、いつでも意見や要望が取り入れられるような体制を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット間での移動はあるが、日常的に交流を持っているため混乱することなく対応できている。また、新しい職員に対して一週間はコミュニケーションを中心としたケアを行い、利用者を知ってもらうことでスムーズにケアができるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会が新人の教育や介護技術の向上のための研修を行なっている。また、外部の研修参加は積極的に行なわれており、伝達研修も行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会に参加しており、介護支援専門員が中心となって同業者との交流を深めている。ホームのイベントなどにお互い招待している。		今後は、日常的な訪問も含め勉強会や事例検討会などが行なえるよう取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	日中、ホームに遊びに来てもらえる機会を作り、昼食などを一緒に取りながら利用者と過ごす機会を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや洗濯、裁縫など様々な日常生活の場面で利用者から学ぶことが多くあり、支えられていると職員は感じながらケアを提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションが難しくなっている利用者に対しても「生活と安全のカルテ」を作成しており、常に利用者の思いに寄り添うケアを行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者に生活の要望を確認するアンケートを行ない、家族や職員が話し合い、共に意見を出し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿った内容の日々の記録を基に、介護計画の見直しや担当者会議を定期的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用希望などの相談業務は常に行なっており、対象者の要望や状態にあったサービスの提供ができるよう他の事業所とも連携を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院は24時間、緊急時の対応も可能であり、家族や本人の希望の医療機関への受診も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに対する指針が整備されており、終末期におけるケアについては家族・利用者・医療機関との連携を取りながら行なわれた事例があった。		今後は、その事例を基にケアマニュアルを作成することで、ケアの統一が図れ、より安全・安心なケアの提供ができるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対し、個々を尊重した言葉かけや対応がされていた。個人情報の取り扱いについての書式も整備されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの生活のリズムを乱さないよう配慮しながら必要なケアの提供がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員とで作った献立や外食を取り入れている。買い物や方付けなど役割を持ちながら食事を楽しむ支援がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間であっても本人の希望の時間に入浴できる。また、小規模多機能の露天風呂などを楽しむこともできる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で利用者それぞれが役割を担えるよう、生活歴の把握を行なっている。また役割が楽しみごとの一部となっていることが多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、買い物など希望に沿った外出を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットや小規模多機能など同敷地内は、職員の見守りや連携により行き来が自由にできる体制をとっており、鍵はかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携で避難訓練を実施している。また、非常食などの備品の整備も行なわれている。	○	今後は更に職員間での知識の統一と情報の共有を行い、災害時や非常時に対応できるよう訓練を重ねていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外食も考慮し、比較的摂取カロリーを抑えたメニューを取るようになっている。また、水分の摂取状況も記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が飾られ、利用者の描いた絵や工作などが自然と飾られた居心地の良い共有空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族が大切にしてきた物や馴染みの物が置いてあり、個性的なその人らしい居室となっている。		